

## パルシステム生産者・消費者協議会 2024年度関東・中部ブロック会議報告

- (1) 7月3日・4日、新潟県新潟市及び県内各地にて、29産地72名、パルシステムグループ23名、行政関係者等4名の総勢99名が参加し、2024年度関東・中部ブロック会議を開催しました。今回は、JA新潟かがやき、ナカショクミートフーズ、パルシステム新潟ときめきによる関東・中部ブロック新潟開催実行委員会受け入れのもと「協創のネットワークによる持続可能な農畜産業と地域づくり」をテーマに進められました。
- (2) 1日目は、新潟市の新潟ユニゾンプラザ大会議室を会場に、倉林永関東・中部副ブロック長の進行、毛利嘉宏生産者運営委員長の挨拶により開会、実行委員会を代表して、JA新潟かがやき小野志乃武理事長より受け入れ挨拶がされました。この中で「生産者と消費者が共に協議する場としてパルシステムと旧JAささかみとの交流と産直の取り組みを次世代に残していかなければならない。」などのご挨拶をいただきました。
- (3) 生消協、パルシステムグループによる事業報告では、毛利嘉宏生産者運営委員長より、ブロック内の新規加入産地として株式会社ささかみの加入が報告され、1月1日の能登半島地震による謙信の郷の被災、6月6日の神奈川中央養鶏での鶏舎火災について、それぞれお見舞いの言葉が述べられると共に、生消協としてのお見舞金贈呈が報告されました。続いて、パルシステム連合会の洪澤温之専務理事、島田朝彰常務より、能登半島地震における被災地支援と地域に寄り添い続ける活動、事業概要および方針について報告がされ、パル・ミートの江川淳専務より、事業概要および生消協畜産部会の取り組みに関する報告がされました。
- (4) 開催県パルシステムグループ報告では、パルシステム新潟ときめき佐々木功専務理事より、今後の生消協加入の意向が示され、2016年の生協設立の経緯、現状と今後についての報告と共に「現在は赤字の生協ではありますが、早期の黒字化を実現し、これからも生消協の皆様の産物・商品を新潟県の組合員へより多くお届けしていきます」と強く示されました。
- (5) 新潟県内6会員産地による産地報告と地域との取り組み報告では、きのこの収穫後の廃菌床活用の拡大、「新潟県オーガニック推進連絡協議会（仮称）」への参画、産地間連携による廃棄物ダ木の活用、農福連携拡大のための「南魚沼農福連携会議」の関する報告がされました。
- (6) 視察産地報告として、JA新潟かがやき・ささかみアグリセンター石山慎太郎氏より、組織概要、ささかみ地区の枝豆出荷として、「えんだま」のブランド化、生産状況、特色について説明がされ、最後に「生産者の所得向上と消費者の満足の両立のために、ものがたりのある商品の共創に努めます」とお話いただきました。  
次に、ナカショクミートフーズの本間基司代表より、組織概要、ナカショク設立の経緯、豚の成長段階に合わせたスリーサイト方式の導入、アニマルウェルフェアに基づいた自然に近くストレスの少ない肥育環境、地域資源の活用による循環型畜産、フードリサイクル事業による食品ロス問題への取り組みが報告され、最後に「生産と交流のなかで、組合員・地域生産者との絆ができるのがパルシステムであり、これからも頑張っ取り組んでいきたい」とお話いただきました。
- (7) 事例報告では、阿賀野市農林課の古田島和人農林企画係長より、オーガニックビレッジの取り組み、地域の生産者・農協の声に行政が参画し進めてきた経緯と、これからの課題としての有機の取り組みにおける地域差の解消について展望が示されました。
- (8) グループディスカッションでは14のグループに分かれ、「商品の関係性や物語の見える化が必要。価格高騰の中で生産者と消費者との踏み込んだ話し合いができる場づくりが必要」などの意見が出されました。
- (9) まとめとして、関西以西ブロックの宇都宮幸博副ブロック長よりひとことご挨拶がされ、関東中部ブロックの坂入清史ブロック長より、「環境、半農半Xなど産地と地域が共に取り組む例が多く、パルシステム新潟ときめきが県内産地と共に組合員活動を進めれば更なる発展が望める。」と

呼びかけられ、2025年のブロック会議開催地は長野県となることが発表されました。続いて、次年度開催県を代表してパルシステム山梨長野の小谷真弓副理事長・消費者幹事より、「全力で開催に向けて協力していきたい。大勢のご参加をお待ちしています」と呼びかけられ閉会となりました。

- (10) 翌日は、2グループに分かれて視察を行い、JA新潟かがやき視察では、ささかみえだまめ集出荷選別施設、ライスセンター、有機枝豆圃場、産地へ行こうツアー交流田、阿賀野市ゆうきセンターを視察し、ナカショクミートフーズ視察では、フードリサイクル工場、ペレット堆肥工場を視察しました。最後に「道の駅あがの」にて合流し、全国のパルシステム産直産地と連携した道の駅運営について、5産地の食材とパルシステムの調味料を活かした昼食と共に道の駅あがの坂井文駅長よりお話をうかがいました。さらに、「パルシステム新潟ときめき交流・発信ステーションふらっと」についてパルシステム新潟ときめき五十嵐大輔室長よりお話を伺いました。
- (11) すべてのプログラムが終了後、望月静子消費者幹事、坂入清史ブロック長によるまとめの挨拶がされ、「この2日間で産地と行政、地域、道の駅がつながり、多くの取り組みが行われていることを知ることが出来た。来年は長野県で会いましょう」と呼びかけられ閉会となりました。



1日目 本会議での全体撮影



ささかみえだまめ集出荷選別施設にて



ナカショクフードリサイクル施設にて



坂井駅長による施設説明の様子

以上